

事務局だより

1. 昭和62年度総会

総会では恒例により大会委員長（長塚康弘教授）を議長として選出し、議事に入り、以下の決定がなされた。

(1) 昭和61年度決算について

監査委員の大久保康彦、鳴澤実両氏の監査を受けた決算書が事務局より提出され、承認された。

(2) 昭和62年度予算案について

常任運営委員会、運営委員会において承認された後、総会において決定された。

(3) 第53回大会決算について

開催校、明治学院大学より報告があった。

(4) 名誉会員推薦について

常任運営委員会において推薦がなされ、その後、運営委員会、ならびに総会において以下の5氏が、満場一致で決定された。

行田忠雄、松村康平、永澤幸七、中川大倫、大田垣瑞一郎

(5) 次期大会開催校について

創価大学において、山本晴雄教授を大会委員長として行うことに決定した。

(6) 新規運営委員17名、新規会計監査委員1名が総会において、満場一致で決定された。

昭和62年度総会

昭和62年7月18日（新潟大学第54回大会時に同校で開催）

1. 開会

2. 議長選出

3. 事業報告

(1) 会員異動状況

(2) 会費納入状況

(3) 公開シンポジウム開催について

(4) 機関誌第12号発行について

(5) 「ミニ通信創刊号」発行について

4. 諸委員会等報告

(1) 日本学会議心理学研究連絡会

(2) 心理学諸学会間連絡会

(3) 国際心理学会記念基金運営委員会

5. 第53回大会報告（明治学院大学）

6. 審議事項

(1) 昭和61年度決算

(2) 昭和62年度予算

(3) 運営委員（新規）

7. 名誉会員推戴について

8. 次期大会開催校挨拶

9. その他

10. 閉会

会員異動状況と会費納入状況

1. 会員異動状況

会員数 985名

（昨年大会時 997名）

新入会員 60名 自：昭和61年9月1日

退会者 70名 至：昭和62年6月31日

物故者 2名

2. 会費納入状況（昭和62年7月10日現在）

62年度 432名（納入率43.9%）

61年度 763名（納入率77.5%）

60年度 926名（納入率 94.0%）

昭和 61 年度 決 算 報 告

収 入			支 出		
項 目	実 行 額	予 算 額	項 目	実 行 額	予 算 額
前年度繰越金	826,767	826,767	第53回大会補助費	400,000	400,000
学 会 費	3,280,800	2,935,000	シンポジウム費	104,383	90,000
過 年 度 分	509,500	200,000	印 刷 費	1,459,350	1,400,000
本 年 度 分	2,771,300	2,835,000 (4500×900 ×0.7)	機 関 誌	1,335,640	1,200,000
			そ の 他	123,710	200,000
雑 収 入	114,840	50,000	通 信 費	382,840	500,000
			機 関 誌 ・ 名 簿	251,130	300,000
			一 般	131,710	200,000
			機 関 誌 編 集 費	31,480	30,000
			『ミニ通信』費	54,700	100,000
			事 務 局 費	319,130	250,000
			ア ル バ イ ト 費	57,500	50,000
			積 立 金 (名 簿)	200,000	200,000
			名 簿 作 成 費	697,900	700,000
			『さいころじすと』費	37,490	40,000
			諸学会間連絡会費	7,000	10,000
			予 備 費	20,790	41,767
			次 年 度 繰 越 金	449,844	
合 計	4,222,407	3,811,767	合 計	4,222,407	3,811,767

上記の通り相違ありません

昭和62年 7 月 7 日

大 久 保 康 彦 ㊞

馬 場 房 子 ㊞

日本応用心理学会第53回大会決算報告

昭和61年 9月20日～21日
於 明治学院大学横浜校舎

収 入		支 出	
本部補助金	400,000	印刷費	1,202,095
大会参加費	1,181,500	通信発送費	375,210
論文掲載料	550,000	大会運営費	707,358
論文集代金	516,000	謝金	1,028,500
懇親会会費	176,000	懇親会会費	325,660
広告料	89,800	会議費	167,402
寄付金	956,000	事務費	61,228
雑収入	18,718	雑費	20,565
合 計	3,888,018	合 計	3,888,018

昭昭62年度予算原案

昭和62年 7月18日

収 入		支 出	
項 目	予 算 額	項 目	予 算 額
前年度繰越金	449,844	第54回大会補助費	400,000
学 会 費	3,535,000	シンポジウム費	100,000
過 年 度 分	400,000	印 刷 費	1,500,000
本 年 度 分	2,835,000 (4500×900×0.7)	機 関 誌	1,300,000
賛 助 会 費	300,000	そ の 他	200,000
雑 収 入	50,000	通 信 費	500,000
		機 関 誌 ・ 名 簿	300,000
		一 般	200,000
		機 関 誌 編 集 費	30,000
		『ミニ通信』費	120,000
		事 務 局 費	300,000
		ア ル バ イ ト 費	90,000
		積 立 金 (名 簿)	400,000
		交 通 費	200,000
		『さいころじすと』費	40,000
		諸学会間連絡会費	10,000
		予 備 費	374,844
合 計	4,034,844	合 計	4,034,844

運営委員 (新規)

井上枝一郎 (労働科学研究所)
打田茉莉 (東京婦人補導院)
大橋信夫 (海上労働科学研究所)
大山俊男 (大東文化大学)
垣本由紀子 (航空医学実験隊)
菊池哲彦 (茨城大学)
久米 稔 (早稲田大学)
佐藤啓子 (文教大学)
佐藤 隆 (日本鋼管病院)
鈴木理包 (八王子少年鑑別支所)
橋本泰子 (横浜市立大学)
鳴澤 實 (都立大学)
肥田野直 (放送大学)
平木典子 (立教大学)
福井嗣泰 (江戸川女子短期大学)
古川久敬 (九州大学)
森下高治 (相愛大学)
会計監査
馬場房子 (亜細亜大学)

2. 常任運営委員会記録 (前号までに記載された以降のもの)

昭和62年 6月26日

出席者：長塚、大島、岡村、恩田、大脇、神作、斎藤
宮本美 (村井、土屋、田中)

報告事項：(1) 第54回大会準備状況 (長塚準備委員長より) (2) 事務局報告 (村井事務局長より) ①ミニ通信の発行 ②入会の栞 (1987 版) ③会計監査等の総会準備 ④第14期学術会議の団体登録等について (3) その他

審議事項：(1) 本年度公開シンポジウム。10月24日 (土) 日大文理学部において、PM 2:00~5:00、「日本人と文化摩擦」司会：大島貞夫、話題提供者：星野命 (ICU)、岩崎徹也 (東海大)、河野貴代美 (なかま)、渡辺カズオ (東北歯大)

(2) 会計監査補充人事 馬場房子 (亜細亜大) を推薦し、総会で決定した。

(3) 名誉会員推薦 大田垣瑞一郎、松村康平、行田忠雄、永沢幸七、中川大倫の5氏を推薦し、総会で決定した。

昭和62年 9月29日

今回より山本晴雄会長の座長により議事が行われた。

出席者：山本、長塚、遠藤、大島、岡村、恩田、大脇神作、越河、高嶋、中村、森 (村井、土屋、田中) 板倉

(名誉会員)

報告事項：(1) 第54回大会終了 (2) 第55回大会準備状況 (山本晴雄準備委員長より) 昭和63年10月16~17日 (未定) 創価大学において開催の予定 (3) 公開シンポジウム準備状況 10月24日「日本人と文化摩擦」というテーマで、日大文理学部において開催することに決定 (4) 諸学会間連絡会 (5) その他、事務局より、賛助会員の積極開拓の要請あり、現在3口の申し込みあり、他に関係学研究所・日本心理劇協会より5口、計12口。

審議事項：(1) 学術会議選挙推薦人の件。学術会議会員選挙管理会より、応心として、2名枠の回答あり、推薦人を次回に決定する。(2) 新入会員審査、3名承認。(3) その他

昭和62年12月4日

出席者：山本、大村、斎藤、中村、宮本昇、宮本美、(村井、土屋、田中) 板倉 (名誉会員)

報告事項：(1) 公開シンポジウム終了報告 (村井、斎藤氏より報告) (2) 第55回大会準備状況 (山本大会準備委員長報告) (3) 諸学会連絡会関連事項、委員を岡村、土屋両氏に決定 (4) 事務局諸報告 (5) その他

審議事項：(1) 運営委員追加人事の件、丸井澄子、内海澁、松山欽子の3氏推薦される (2) 学術会議選挙推薦人の件、11月までに2名選出すること (3) 新入会員審査

昭和63年 1月26日

出席者：山本、長塚、大村、奥沢、恩田、大脇、斎藤、高嶋、中村、長谷川、平野、正田、宮本昇、宮本美、森、(村井、土屋、田中) 板倉 (名誉会員)

報告事項：(1) 諸学会間連絡会 (2) 第55回大会準備状況 (3) 機関誌編集状況 (4) 事務局移転について、4月1日より、駒澤大学 (中村昭之事務局長) に正式決定 (5) 事務局諸報告、例年通り長期滞納会員 (3年) に督促の結果50名中13名納入、他は退会扱いとなる (6) その他

審議事項：(1) IAAP 委員の件、'90年大会の準備委員1名を応心に求められている。関西地区会員の中から推すことにし、人選は事務局に一任 (2) 「日本臨床心理士資認定協会」設立の件、2月10日迄に応心からも準備委員を出してほしいとの呼び掛けがあった。これにつき、種々不明な点や問題点があるため今回は見送り、3月の常任委で再審議する (3) 運営委員追加人事の件、丸井澄子、内海澁、松山欽子の3氏決定 (4) 新入会員審査、5名承認 (5) その他、賛助会員をもっとふやしたい (62年予算に10社30万円を見込んだが、現在4機関12万円)。

昭和63年 3月18日

出席者：山本、遠藤、大島、大塚、大村、岡村、奥沢、恩田、大脇、神作、越河、駒崎、斎藤、高嶋、中村、西岡、長谷川、宮本美、森、(村井、土屋、田中)松倉、清宮(名誉会員)

報告事項：(1) 第55回大会準備状況 (2) 事務局報告、1、児玉省先生ご葬儀の件 2、新事務局の駒澤大学への事務引き継ぎを3月29日に日大で行う (3) その他、学術会議関係；心研連委員、斎藤委員の任期(13期)が、7月12日で満期となる。

審議事項：(1) IAAP 大会委員推薦の件、宮本昇委員を本学会として準備委員会に推薦する (2) 「日本臨床心理士資格認定協会」設立の件(継続)、賛同について、賛否両論が出たが、本学会、現時点ではこれに加入しない (3) 新入会員審査、4名承認 (4) その他、名誉会員 鶴田正一先生 3月3日ご逝去、東大医学部に献体のため、ご葬儀は半年か一年先になる模様。中京大学を中心として「偲ぶ会」の計画がある(以上、神作委員報告)様子をみて、応心としても対応を考える。

昭和63年 4月26日

出席者：山本、長塚、岡村、神作、駒崎、高島、高橋、西岡、平野、正田、宮本昇、村井、森(中村、篠原、小野、谷口、板津)板倉(名誉会員)

報告事項：(1) 事務局諸報告(中村事務局長より)大脇常任委員逝去。事務局の移転について。常任運営委員の交代について。(2) 第55回大会準備状況(山本準備委員長より)発表者に2号通信を発送した。(3) 諸学会間連絡会関係。(4) その他

審議事項：(1) 今年度公開シンポジウムテーマについて (2) 第56回大会開催校の件 (3) 諸学会間連絡会委員について 事務局から1人出す。(4) 新入会員審査15名全員承認。

昭和63年 5月27日

出席者：山本、大塚、大村、岡村、恩田、越河、斎藤、高島、長谷川、正田、村井、森(中村、篠原、小野、板津)板倉(名誉会員)

報告事項：第55回大会準備状況(山本準備委員長より)シンポジウムは、「個性を伸ばす教育」「職業について」の2題とする。(2) 諸学会間連絡会関係 (3) 事務局諸報告 賛助会員入会促進の協力依頼、諸学会間連絡会委員に事務局から小野幹事が出席、他。(4) その他

審議事項：(1) 第56回大会開催校の件 (2) 昭和62年度決算、昭和63年度予算について 原案を承認。(3) 今年度公開シンポジウムテーマについて「校則の問題」に決定。(4) 新入会員審査5名全員承認。(5) その他

3. 一般活動報告、事務諸報告

1. 第54回大会(昭和62年7月18・19日)新潟大学において開催。盛会のうちに終了。
2. 「応用心理学研究」第12号が印刷出来、会員および関係機関に送付(昭和62年7月)。
3. 昭和62年度公開シンポジウムを、「日本人と文化摩擦」というテーマで開催(昭和62年10月、会場：日本大学文理学部)。
4. 「ミニ通信」を発行(昭和62年10月)。
5. 昭和63年4月より、学会事務局が日本大学文理学部心理学研究室から駒澤大学文学部心理学研究室内に移転。移転通知を会員および関係機関に送付した(昭和63年4月)。

4. 第54回大会発表状況

(昭和62年7月18・19日、新潟大学、大会委員長長塚康弘教授)

参加者	正会員	235名
	臨時会員	27名
	学生会員	2名
	合計	264名
個人発表		141件
特別講演		1題
シンポジウム		2題
発表取り消し		5件

5. 会員異動(前号掲載分以降の分、順不同)**新入会員(再入会を含む)**

内藤忠昭、中島敦子、新田泰生、渡辺文夫、神田愛子、吉川成司、東 清和、金丸徳久、小泉聖一、鈴木 清、伊田行秀、西方 毅、諸富 隆、中村 完、高橋真理、小池妙子、玉木ミヨ子、森下節子、湯川倫代、山口桂子、鈴木信子、原 萃子、竹内由則、式村正明、西脇 淳、畠山浩子、柴崎圭子、吉田 悟、吉田直美、若山隆良、村山生美、浜野佳子、小林正和、大藤 亨、水田茂久、望月葉子。

退会者(長期会費滞納者を含む)

足立明久、塩谷政憲、阿久津洋己、福井 至、長谷川純子、花岡正夫、原 秀安、伊勢民人、石田恒好、石原岩太郎、松井修一、伊藤 敏、門田寿秋、勝見正彦、熊坂敬典、村田 晃、森田敬信、中田カヨ子、中山三郎平、七尾和之、中沢 清、長井 進、中村博志、大野敦子、小島 潔、大川雅司、佐々木紀彦、鈴木幹人、曾谷彰、戸田勝也、谷口幸一、山田雄一、山田泰子、山入端津由、吉沢 勇、上垣博和、小川圭子、水田由美子、折

原 隆, 米丸隆一, 福井東一, 東海林透, 大倉 明, 田中堅一郎, 阿部 正, 今城周造, 高橋紀子, 管野幸宏, 東海林雅子, 糸田尚文, 梅田昭吾, 茂木茂八。

賛助会員

(株)マクミラン出版社, 日本心理劇協会・関係学研究所。

物故者 次のかたがたがお亡くなりになりました。慎んで哀悼の意を表します。

児玉省, 鶴田正一, 加藤忠久, 大脇三恵子, 関 力。

6. 寄贈文献 (前号掲載分以降のもの)

学会事務局に, 以下のような雑誌類が寄贈されておりますのでご利用下さい。

一定期刊行物一

社会福祉学部研究報告 (愛知県心身障害者コロニー) 1987. No. 12.

発達障害研究所年報 (愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所) 1987. No. 16.

テレビ・ラジオ番組視聴率調査 (NHK 放送世論調査部) 1987.

放送研究と調査 (NHK 総合放送文化研究所) 1988.

母子保健情報 (恩賜財団母子愛育会) 1987. Vol. 15・16.

科学警察研究所報告 (交通編) (科学警察研究所) 1988. Vol. 29-1.

科学警察研究所報告 (防犯編) (科学警察研究所) 1987. Vol. 28-1, 2.

科学警察研究所年報 (科学警察研究所) 1987.

IATSS Review (国際交通安全学会) 1987. Vol. 13-2, 3. 1988. Vol. 14-1.

IATSS Research (国際交通安全学会) 1987. Vol. 11.

雇用職業総合研究所年報 (雇用職業総合研究所) 1986.

雇用職業研究 (雇用職業総合研究所) 1987. No. 28.

雇用と職業 (雇用職業総合研究所) 1987. No. 59~
鉄道総研報告 (鉄道総合技術研究所) 1988. Vol. 2-3.

玩具文化 (佐藤玩具文化財団) 1988. No. 3.

基礎心理学研究 (日本基礎心理学会) 1987. Vol. 5-2. 1988. Vol. 6-1.

指導と評価 (日本教育評価研究会) 1987. Vol. 33-8~

人事試験研究 (日本人人事試験研究センター) 1987. No. 124~

化粧文化 (ポーラ文化研究所) 1987, 1988. No. 17,

18.

産業安全研究所年報 (労働省産業安全研究所) 1986.

国立身体障害者リハビリテーションセンター研究紀要 (国立身体障害者リハビリテーションセンター) 1987. Vol. 8.

発達研究 (発達科学研究教育センター) 1988. Vol. 6.

UNIVERSITAS A Quarterly German Review of the Arts and Sciences. (Wissenschaftliche Verlagsgesellschaft mBH) 1986. Vol. 28-4~

産業・組織心理学研究 (産業・組織心理学会) 1988. Vol. 2-1.

慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要 (慶應義塾大学大学院社会学研究科) 1988. No. 28.

東北教育心理学研究 (東北大学教育学部教育心理学研究室) 1987. Vol. 2.

広島修道大学研究叢書 (広島修道大学総合研究所) 1987. No. 45.

人文学研究所報 (神奈川大学人文学研究所) 1988. No. 21.

人文研究 (神奈川大学人文学会) 1987. No. 97, 98.

鹿児島女子大学研究紀要 (鹿児島女子大学) 1988. Vol. 9.

臨床心理学の諸領域 (金沢大学文学部心理学研究室) 1987. No. 6.

筑波大学心理学研究 (筑波大学心理学系) 1988. No. 10.

東京大学教育学部紀要 (東京大学教育学部) 1987. Vol. 26.

名古屋大学教育学部紀要教育心理学科 (名古屋大学教育学部教育心理学教室) 1987. Vol. 34.

Hiroshima Forum for Psychology (広島大学教育学部心理学研究室) 1987. Vol. 11.

明星大学心理学年報 (明星大学心理学研究室) 1988. Vol. 6.

早稲田大学システム科学研究所所報 (早稲田大学システム科学研究所) 1988. Vol. 19.

早稲田心理学年報 (早稲田大学文学部心理学会) 1988. Vol. 20.

立教大学心理学科研究年報 (立教大学文学部心理学研究室) 1982~5. No. 25~28.

特殊教育研究施設報告 (東京学芸大学教育学部附属特殊教育研究施設) 1988. Vol. 37.

上智大学心理学年報 (上智大学文学部心理学科) 1987. Vol. 12.

TECNICAL REPORT (上智大学文学部心理学科)

1988. Vol. 1.

東京国際大学論叢 (教養学部編) (東京国際大学)

1987. No. 36. 1988. No. 37.

—図書—

森田潔研究論文抄録. 凸版印制株式会社.

第5回職業指導学国際会議報告書. 芦屋大学.

いま, 企業は何をなすべきか —高度戦略企業への視点— 油谷遵著. TBS プリタニカ.

研究調査報告書 (昭和60年度助成分) No. 2. 電気通信普及財団.

日本の学術研究動向 日本学術会第3常置委員会.
